

～地域一体となったセイゴ等低利用魚の有効活用～
有限会社青山商店（島根県松江市）

目詰まりの現状

宍道湖に生息するセイゴ(スズキ幼魚)は害魚として取り扱われ、シラウオを捕食したり、エラや背びれで網を破ったりと、漁業者は対処に苦慮している。
 また、漁獲しても市場では値が付かず、多くは投棄されるため、宍道湖の生態系に大きな影響を与えている。
 シジミや白魚等漁獲量の減少により、漁業経営が厳しい中、昔は利用していたセイゴの有効活用を求める声は大きい。

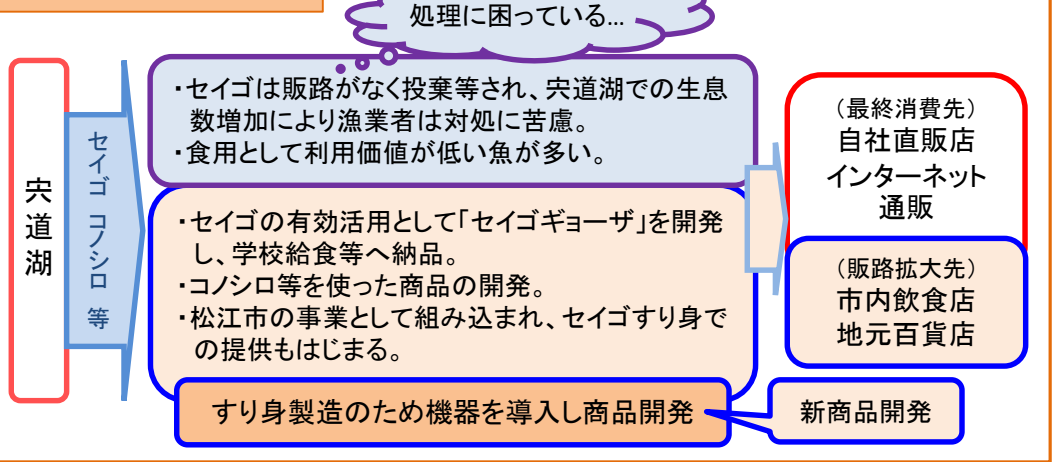
プロジェクトの概要

- ・セイゴを使った商品「セイゴギョーザ」の開発を行い、学校給食等へ納品する。
- ・セイゴ等の地魚を使ったすり身製造のための機器一式を導入。
- ・イベント等に参加し、セイゴの食用化に向けてのアピール及び宍道湖の生態系に関しての周知活動を行う。

取組による成果

- ・松江市内飲食店と共同でセイゴすり身を利用した新商品の開発及び販売を開始。
- ・地元におけるセイゴ食文化継承のため、松江市の協力により、漁業者、当社、流通業者等が連携して開発した新商品をマスコミ等にアピール。
- ・テレビ等のメディアでの紹介、島根物産展での出展などにより、セイゴ食文化が普及。

プロジェクトフロー



セイゴを使った新商品



導入機器類



(平成28年3月現在)